

景況レポート

(9月分・情報連絡員80名)

卸売業などで悪化割合が増加し、 全体景況DI値は後退

【概況(全体)】

9月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが10.0%(前回調査7.5%)、「悪化」が38.8%(同35.0%)で、業界全体のDI値は-28.8となり、前月調査と比較し1.3ポイント下回った。

製造業の景況DI値は、全国、東北・北海道ブロックを上回っているものの、非製造業の数値が後退したことで全体DI値についても下回る結果となった。

【業界別の状況】

鉄鋼・金属が引き続き好調を維持し、印刷、運輸業の一部で好転割合が増加したものの、食料品や卸売業で悪化割合が増加したことが全体の景況DI値を悪化させる要因となった。

業種を問わず、人手不足の影響が大きくなってきており、受注・収益に留まらず、事業継続等にも影響を与える懸念がある。消費増税、働き方改革への対応、最低賃金引き上げを懸念する声も多い。全国的に台風等の自然災害が発生しており、影響を受けた中小企業者も多い。改めてBCP等の事前対策が必要との声も増加した。

<全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較>

	秋田県	全 国	東北・北海道
全 体	-28.8	-25.2	-23.3
製 造 業	-28.1	-31.2	-31.3
非製造業	-29.2	-20.7	-18.9

<景況天気図>

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業							
非製造業							

【凡例】

快晴 30以上	晴れ 10以上 30未満	曇り △10以上 △30未満	雨 △30以上 △10未満	雷雨 △30以下

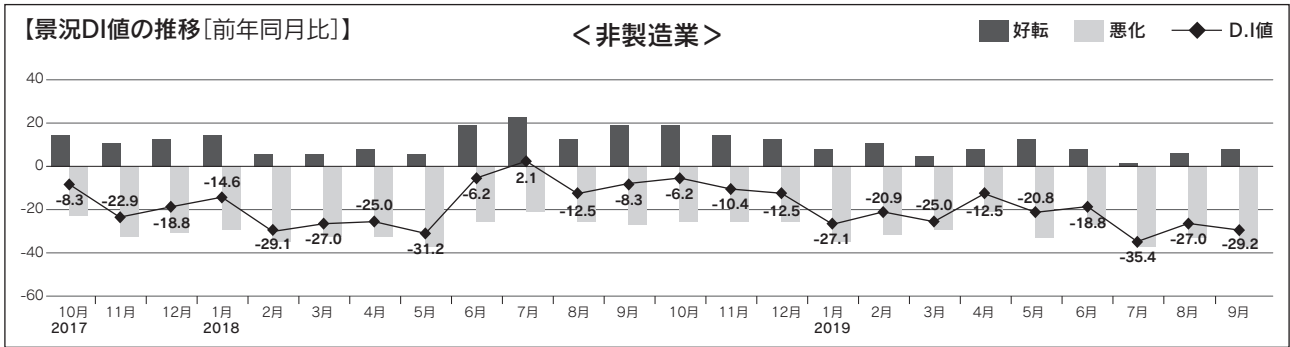
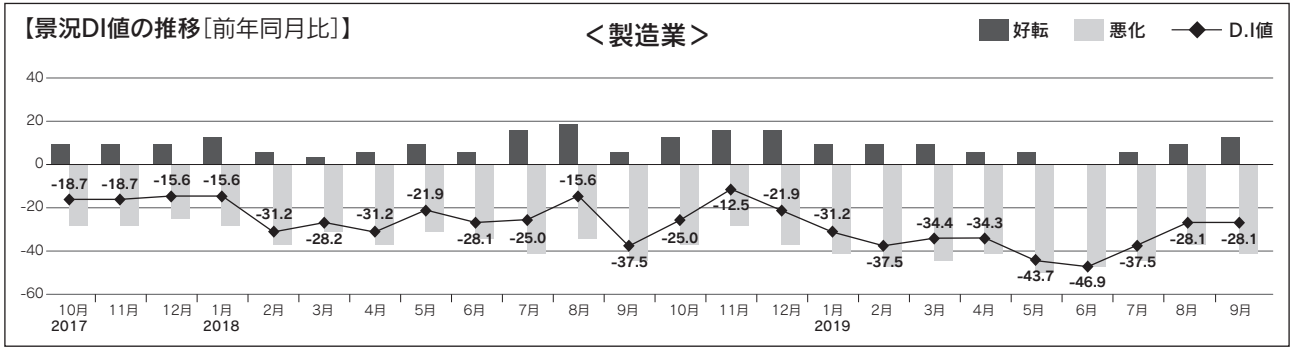
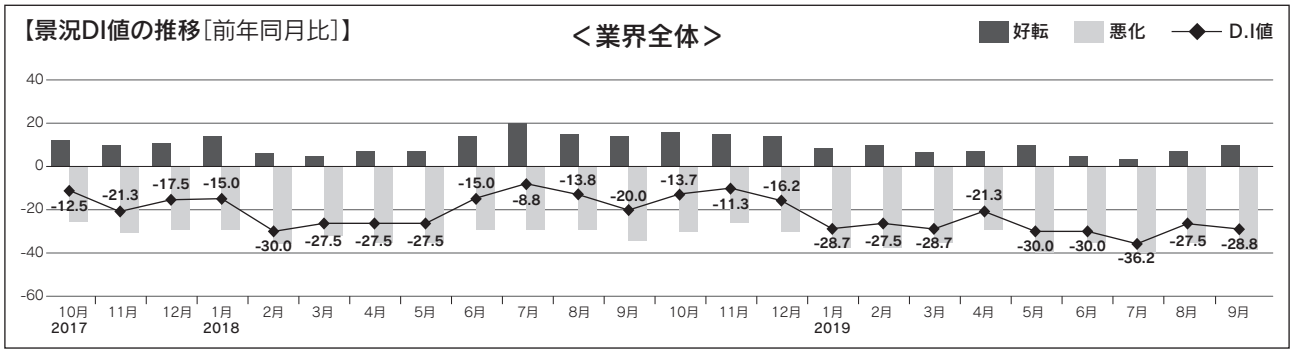
【天気図の見方】
前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ～製造業～

(回答数：32名 回答率：100%)

食料品 (豆腐)	毎年、季節の変わり目は消費が少なく、売上は低迷したが、対前年同月比で横ばいで推移した。
食料品 (精穀・製粉)	お月見、敬老の日、秋彼岸等イベントが多い9月であるが売上は低調だった。原料価格も高止まり状態にあり厳しい状況が続いている。
繊維工業 (ニット)	全体的に小ロット・短納期の受注が多く、採算性が悪い状況にあり、加工賃改善の見込みもない。
繊維工業 (繊維)	多少、景気回復の傾向にはある。定番品の受注数が少なく、売上はほぼ横ばいであり、来期に期待している。経費が増加しても加工賃が上昇する見込みがない。(県南地区)
木材・木製品 (一般製材)	増税前の駆け込みも少なく、首都圏では住宅需要が停滞し始めている。コストの上昇分については価格に転嫁できずにいる。
木材・木製品 (素材生産)	一般製材用原木の生産量は、素材生産事業体が請負主体となり、民間からの生産量が減少傾向にはあるが、国有林材等が増加していることから横ばいで推移し、価格についても横ばいである。合板用原木については、安定した供給となっていることや国産針葉樹合板の消費も横ばいで推移していることから、合板用原木の在庫については大きな変化はみられない。チップ用原木は、製紙用、バイオマス用とも不足している。
印 刷	消費税増税に伴う駆け込みで売上は伸びた。納期への対応で残業時間が増加し、働き方改革による時間管理と併せて大きな負担となっている。10月以降の買い控えが大きな懸念材料である。
窯業・土石製品 (生コンクリート)	9月の出荷数量は前年同月比106.8%である。3月以降、前年割れが続いていたが、今月は、昨年度の風力発電所建設工事による反動から男鹿南秋地区、本荘由利地区では前年同月を下回ったが、他地区では上回った。
鉄鋼・金属 (機械金属)	先月に引き続き各社とも稼働率100%以上と好調を維持している。見積依頼も引き続き維持しており、収益状況も安定してきている。
一般機器 (金属加工)	前月同様に受注面は厳しく、軒並み前年同月を下回っている。今後についても先行きが見えない状況にある。原材料については物によって値上がり傾向にある。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (商業卸)	消費税増税前の駆け込みで、前年同月比約2割程度売上が伸びた企業があるものの、依然として需要の停滞、仕入単価の上昇を販売単価に転嫁できない状況にある。(中央地区)
卸売業 (米麦卸)	平成30年産主食用米の販売進捗率は99%となり、販売完了の状態になった。令和元年産米は生育も順調に進み作柄も104と豊作基調となっている。集荷も9/15以降進み、例年より5日早い状況である。
小売業 (石油)	ガソリンの小売価格は1ℓあたり146円50銭で前月比80銭値を上げた。軽油は128円80銭で前月比90銭、配達灯油18ℓは1,650円で前月比2円とそれぞれ値を下げた。WTI原油価格が60ドル前後で推移し、為替相場も108円前後と大きな動きはなく、末端価格はほぼ横ばいの推移となった。
小売業 (花卉)	8月から引き続き需要の停滞が続いており、深刻な状況である。天候不順などで品薄と高値が続いている。
商店街	電気店、建材店、洋服店等の一部業種では駆け込みの購買が発生したが、増税後の落ち込みが不安との声がある。大半の個店の収益状況は対前年比では減少している。(秋田市)
サービス業 (自動車整備)	自動車検査台数実績では、全体では前年同月比で5.3%の増加となった。内訳では登録車が9.8%の増加、軽自動車も7.1%の増加となった。検査台数の増加は消費税増税前の駆け込みによるものと思われる。
サービス業 (タクシー)	一部地域、事業者では乗務員数は減っているものの、業務に慣れてきた新規乗務員が積極的に稼働している。クルーズ船の寄港による売上高も見られるようだ。一方で、乗務員不足による稼働率の低下が響いている地域もある。
建設業 (電気工事)	消費税増税前の受注量の増加を見込んだが期待が外れ、前年同月比は悪化のまま景況の好転は見込めなかった。(県南地区)
運輸業 (トラック)	農産物が順調に推移し、貨物量は増加している。前月比の売上、収益ともに増加傾向にあり、前年同月比でも同様である。来月以降、燃料価格は値上げ見込みとなっており今後、冬期間へ向けて収益状況への影響が懸念される。(県南地区)